

第5学年西組 家庭科学習指導案

「いつもすっきりビフォーアフター ～整理・整とんで快適に～」

学習指導者 阿部 聡子

1 学級（34名）の実態

（1）共に学びを進め合うことに関する学級の実態

質問紙調査の結果より、家庭科の授業で、新しく分かったことやできるようになったことが何かを考えている子供は33名いる。しかし、実際の授業では、振り返る際に、目当てと照らし合わせて、自分が分かったことやできるようになったことが明確になっていない記述や感想が多い。また、調理実習の際の振り返りの記述では、友達と協力したから安全に調理ができたと感じてはいるが、自分がどのように友達に関わったから上手くいったのかについて自分や友達の行動を具体的に記述する様相は、あまり見られない。

（2）本題材の学習に関する学級の実態

質問紙調査の結果より、学校で自分の持ち物を片付けている子供は32名であった。みんなが使う場所をいつも片付けている子供は9名であった。「家が片付いているとすっきりする」や「清潔にできる」など自発的に片付ける理由を挙げた子供がいる反面、家族から促されて片付けている子供もいる。また、片付けられない理由には、「時間がない」「面倒だ」を挙げている。身の回りを片付けることの必要性は感じているが、みんなが使う場所を進んで整理・整頓しようという意識はあまり高くない実態がある。

2 本題材で習得を目指す「振り返る」方法

分かった・できたこととその理由を振り返る

3 本題材で目指す「共に学びを進め合う子供」の姿

物が散乱している部屋の写真を見た子供たちは、「ぐちゃぐちゃだとすぐに物が見つからないよ」など片付いていないことで困ったことを自分の経験と重ねながら見付ける。そして「どうやったらきれいになるかな」「使いたいものをすぐに見付けるにはどうしたらいいのかな」など問題を見いだしていく。そして、身の回りの整理・整頓したい場所を想起し、「自分や家族が使う場所を無駄なくすっきり整理・整頓し続けられるようになろう」という題材の目標を設定する。その後、設定した目標達成に向けて必要なことは何かを出し合い、取り組む順序を話し合いながら題材計画を立てる。立てた題材計画に基づき、目標達成に向けて本時やるべきことは何かを話し合いながら課題を設定する。そして、道具箱を使って整理・整頓のこつを見付ける際には、家庭で調べてきた整理・整頓のこつで使えることと考えて、解決の見通しをもち、家庭で調べたことや友達の考えを取り入れていく。例えば、「私は、いる物を最小限にすると道具箱の中がすっきりしたよ」、「〇〇さんは、手前にのりやはさみを置いているね。どうして」「よく使う物はすぐに取り出せるようにしているからだよ」「なるほど。ぼくは色鉛筆をよく使うから、手前に色鉛筆を置くようにしましょう」など友達と関わることで、自分では気付かなかった整理・整頓の工夫に気づき、試しながら整理・整頓のこつを見いだしていくのである。

振り返り場面では、題材を通して1枚の振り返りシートに本時分かった・できたこととその理由、生活に生かしたいことを振り返っていく。できたこととその理由を交流する中で、「仕切りを作って場所を決めるとすっきりしたよ。〇〇さんが教えてくれたからできたよ」「△△さんの道具箱もすっきりして嬉しいな」など協働して学ぶことよさや自分が友達の学びに貢献できたことを感じていく。そして、題材目標の達成に向けて、「今度は、自分の家のリビングの棚でも場所を決めるこつを使ってみよう」など家庭での実践へとつなげていく。さらに、整理した時に出たいらぬ物を捨てるだけでなく、使えるような物は資源として活用していくことで、環境にも配慮しながら住生活をよりよくしようとする姿を目指す。

4 達成意欲を高める目標共有の工夫 ①時

散らかった部屋の写真(リビング・子供部屋)を提示し、自分の身の回りで同じようなことはないか想起できるようにすることで、自分の勉強机など具体的な場所について、「使いたい時に物が見付からない」「床に物を置いていて物が壊れた」「すぐにぐちゃぐちゃになる」「物が出ていると転んだ」などの問題点を見付けられるようにする。その後、片付いた写真を提示し、なぜ整理・整頓する必要があるのかを話し合う中で、「すっきりして気持ちがいい」「物を探す時間とお金、環境も無駄にならない」「家族みんなが困らない」など整理・整頓するよさを共有していく。そして、「自分や家族が使う場所を無駄なくすっきり整理・整頓し続けられるようになろう」と題材の目標を設定する。



【散らかった写真】

5 題材計画と方法の習得の段階に合わせた手立て (本時 2/4)

次	題材計画	方法の習得の段階に合わせた手立て
一	<p>① 身の回りを見つめ、どうして整理・整頓が必要か考えよう</p> <p>散らかった写真から、自分の生活を振り返り、問題点を見付ける。また、片付いた写真から「すっきりして気持ちいい」とよさを共感することで、自分や家族が使う場所を整理・整頓しようという意識を高め、「自分や家族が使う場所を無駄なくすっきり整理・整頓し続けられるようになろう」と題材の目標を設定する。その後、題材の目標を達成するために必要なことを話し合いながら題材計画を立てる。</p> <p>(家庭実践)整理・整頓したい場所を写真に撮ったり、家族に整理・整頓のこつを聞いたりする。</p>	<p>【認知段階】</p> <p>振り返り場面では、分かった・できたこと、分かった・できた理由、生活に生かしたいことについて一枚のワークシートに記入することを確かめ、理由として考えられることを具体的に示している。また、今日分かったことやできたこととその理由を考えることで、家庭科の学びと自分の学び方の両面で成長を実感できたり、次にやりたいことを見付かったりするよさがあることを共有している。</p>
二	<p>② 道具箱を片付けて、整理・整頓のこつを見付けよう</p> <p>家族からインタビューしたことや教科書を手がかりに道具箱の整理・整頓を行い、工夫した理由を友達と交流する。「分ける」(いる物・いない物)「まとめる」(形や大きさ等)、「決める」(置く場所)「元に戻す」こつについて交流することを通して、互いの工夫のよさを認めたり取り入れたりする。整理・整頓ができれば写真を撮り、最初の状態と比較しながら、自分の道具箱が整理・整頓できた達成感や気持ちよさなどを感じていく。次も、みんなで見付けたこつを使えば、今日のように自分が整理・整頓したい場所もすっきりできそうだという意識をもつ。</p>	<p>【想起段階】</p> <p>「今日の自分の成長や次にやりたいことを見付けるにはどうすればよかったかな」と問いかけ、方法を想起できるようにする。方法が使えていない子供には、個別に声をかけ「何について振り返るとよかったか」を問う。</p>
三	<p>③ わが家いつもすっきり計画を立てて、やってみよう</p> <p>前時で見付けたこつや家庭でのインタビュー、自宅の写真から、「わが家いつもすっきり計画」を立てる。その際、道具箱の整理で出た不用品の取扱いから、持続可能な社会生活の視点での5Rについて意識することや整理する時に取り入れること、安全面を配慮した置き方についても考える。</p> <p>(家庭実践)「わが家いつもすっきり計画」を実践する。</p> <p>④ 「わが家いつもすっきり計画」を振り返ろう</p> <p>実践した場所のビフォーアフターの写真を基に、使ったこつの内容、不要な物の活用方法について、レポートにまとめる。友達と交流し合い、互いの実践のよさを見付け合う。友達の実践から、次に実践してみたい場所や取り入れたい工夫について発表したり、振り返りに記入したりする。次題材の「できるよ家庭の仕事」へつなぎ、継続して実践することで、家族の一員としてできることを増やしていく。</p>	<p>分かったこと・できたこととその理由を考える</p> <p>○学習課題について何ができたかを学んだかを考える。</p> <p>○分かった・できた理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで習ったことつなげて考えて分かったから。 ・本やインターネットで調べて分かったから。 ・なんども話してやっただけからできるようになったから。 ・友達を見たから。 ・友達から教えてもらったから。 ・友達と話し合っ自分の考えが整理されて分かったから。 <p>★自分の成長がわかる。 次にやりたいことが見つかる。</p> <p>【方法に関する掲示物】</p>

6 本時の学習

目 標	道具箱を実際に整理・整頓し、どのように工夫したかを友達と交流することを通して、整理・整頓のこつを捉えることができる。
--------	--

学習活動と手立て	主な子供の意識	
見 通 し	<p>1 前時の学習を振り返り、学習課題を設定する。</p> <p>この学習のゴールは「自分や家族が使う場所を無駄なくすっきり整理・整頓し続けるようになるろう」だよ。</p> <p>今日は、道具箱を片付けて、整理・整頓するこつを見付けたいな。</p> <p>道具箱を片付けて、整理・整頓のこつを見付けよう</p> <p>どうやって整理・整頓すれば、道具箱が使いやすくなるのかな。</p>	
	<p>2 整理・整頓の手順を知り、見通しをもつ。</p> <p>「整理」では、いる物といらぬ物に「分ける」だったね。だから一番にすることは、「分ける」だね。次は、「まとめる」「決める」があるんだね。</p> <p>家族に聞いてきたこつを使うとさらに使いやすく片付けられそうだよ。</p> <p>困った時は、友達に聞いて、いい意見は取り入れるとよかったね。</p>	
行 動	<p>3 道具箱を整理・整頓し工夫したことを交流する。</p> <p>物が多いな。まずは、整理のために全部道具箱から物を出そう。</p> <p>ぼくは、全部出すと使っていない鉛筆がたくさん出てきたよ。</p> <p>のりがいつも見付からなくて、探すことが多いよ。</p> <p>よく使う物は、手前に置くと使う時に便利とお母さんが言っていたよ。</p> <p>(1) 自分で 使う鉛筆だけ道具箱に置いて、他は持って帰るといいよ。</p> <p>どうやって、鉛筆を片付けたらすっきりするのかな？</p> <p>そうだね。すぐに取り出せるように手前に置いてみよう。</p> <p>だから、よく使うのりを手前に置いてみるのは、どうかな。</p> <p>(2) 班で</p> <p>袋や輪ゴムでまとめるのもいいと思うよ。</p> <p>なるほど。ぼくは、袋に入れて、まとめてみよう。</p> <p>これならすぐに取り出せて使いやすいね。</p> <p>私は、よく使うメモ帳を手前に置くことに決めるよ。</p> <p>(3) 自分で</p> <p>友達と相談するとたくさんのこつが見付かったね。</p>	
	<p>4 整理・整頓の前後を比べ、工夫したことを共有する。</p> <p>片付ける前と後で比べてみると、きれいになっているね。</p> <p>「まとめる」では、同じ種類や大きさ、形のものを袋や輪ゴムでまとめるよ。</p> <p>「決める」では、よく使う物を手前に置くよ。取り出しやすいように道具箱のスペースも必要だね。</p> <p>使った後、「元に戻す」とさらに〇〇さんみたいにきれいが続くんだね。</p>	
	振 り 返 り ・ 見 通 し	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>いつもきれいだと思っていたけれど、△△さんの袋にまとめるこつを使うとさらに使いやすくなったよ。</p> <p>□□さんが、教えてくれたから物の場所を決めて道具箱の整理・整頓ができたよ。</p> <p>次は、見付けたこつを使って自分の部屋の整理・整頓をしていきたいな。</p>

評 価	<p>道具箱を整理・整頓し、友達と見せ合って工夫したことを交流することで、整理・整頓には様々な工夫があることやよさに気づき、自分の生活に生かそうとしている。また、なぜこつを見付けられたかを振り返り、自分の取組のよさに気付いたり、協働のよさを感じたりしている。</p> <p style="text-align: right;">【方法：発言、様相、表現物】</p>
--------	--

7 本時の詳細

～見通し～ **学習活動1・2**

補助黒板の題材計画を示して、「自分や家族が使う場所を無駄なくすっきり整理・整頓し続けられるようになる」という題材の目標の達成に向けて取り組んできたことを確認し、本時の解決する意欲を高められるようにする。本時の課題設定の理由を問うことで、まだできていないことから本時の課題を設定する。次に、課題解決に向けて、解決方法の見通しをもつために、道具箱の問題点を確認し、整理・整頓の手順を共通理解する場を設ける。その際、家庭で聞いたこつや教科書にある工夫、友達のこつを参考にするとよいことを確かめる。また、整理・整頓ができたなら学習支援アプリを使用し写真を撮っておくことも確かめる。活動中は、家庭実践に向けて、家族の一員として整理・整頓できる自分になるために学級のみんなで教え合うことが大切なことを共通理解し、整理・整頓が苦手な子供に意識が向かないようにする。

自分や家族が使う場所を無駄なくすっきり
整理・整頓し続けられるようにしましょう

その4 実せん報告会しよう

わが家で実せんしてみよう

その3 わが家いつでもすっきり計画を立てよう

その2 道具箱を使って整理・整頓のこつを見付けよう

整理・整頓のこつを問こう

その1 身の回りを見つめよう

【題材計画の例】

～行 動～ **学習活動3・4**

実際に道具箱を整理・整頓する活動を設定する。班の友達と交流し、友達の整理・整頓の様子を見たり、教え合ったり、相談したりしながら整理・整頓する場を設定する。また、「すっきりコーナー」を設け、仕切りや輪ゴム等のグッズを置いておき、自分で様々なこつを試せるようにする。班の友達に自分から整理・整頓のこつを聞いたり、話したりしていない子供には、教師が個別に困っている点や工夫している点について尋ねる。整頓の仕方に困っている場合は、家庭で聞いたこつを確かめたり、班の友達や聞きやすい友達にも相談するように促したりする。整理・整頓した後の写真を撮り、どのくらい変わったかを見比べる時間をとる。発表時にそれをモニターに映し、変化が一目で分かるようにすることで、工夫のよさを共有し、整理・整頓することのよさを実感できるようにする。そして、こつをまとめる際には、手順の「分ける」「まとめる」「決める」についてどんな工夫をしたかを聞くことで、自分の使いやすい道具箱にするために様々なこつがあることに気付くようにする。さらに前時での片付けの問題点「いつの間にかぐちゃぐちゃになっている」ことに触れる。そして、いつも整理・整頓できている子供にどうしていつもきれいなのか理由を尋ねたり、教師の机の中の写真(整理・整頓時と一週間後)を例に挙げたりすることで、「元に戻す」必要性に気付けるようにする。友達が見付けたこつを更に試したり、本当に自分にとって使いやすい道具箱になったのかを確認したりするための時間を設定する。

～振り返り・見通し～ **学習活動5**

「自分の成長を見付けるためにはどうしたらよかったかな」と問いかけ、方法を想起できるようにする。題材を通して、一枚の振り返りシートにすることで本時だけでなく前時の学びとも比較しながら題材を通して自分の成長を感じられるようにする。振り返りは、「分かった・できたこと」「分かった・できた理由」「次に生かしたいこと」の三観点とする。「分かった・できた理由」は、自分で考えたり試したりしたことを①、友達の力を借りて解決できたことを②として明記することでより友達からの学びを意識できるようにする。一緒に活動した班の友達に今日の活動を通して、互いによかった点を伝え合う場を設定し、その後、「友達と一緒に整理・整頓してよかったことはどんなことですか」と問うことで、友達と協働して学ぶよさや友達への貢献についても感じられるようにする。題材計画を提示したり、事前に家庭で調べた写真を見返すように促したりすることで、次時からの家庭実践への意欲を高められるようにする。

いつも すっきり ビフォーアフター 組 番 名前()

自分や家族が使う場所を無駄なく すっきり整理・整頓し続けられるようになる。

分かったこと・できたこと
 ① これまで習ったことつなげて考えて分かったから。
 ② 本やインターネットで調べたり、家族に聞いて分かったから。
 ③ 何度も試してやったから。
 ④ 友達がやっているのを見たから。
 ⑤ 友達から教えてもらったから。
 ⑥ 友達と話し合っ自分の考えが整理されて分かったから。

日にち	分かった・できたこと (発見したこと)	理由	次にやってみようこと 生活に生かしたいこと
7	何回も使うのりやはさみは、道具箱の手前の場所に決めて置くというこつが分かった。	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 友達の名前 (○○ ○○)	自分の部屋の机の引き出しでも置き場を決めたり、仕切りを使ったりしたい。

【振り返りシート】

